

令和 7 年度
第 3 学年版

シラバス

Syllabus

授業計画の概要



富士見市立富士見台中学校

富士見台中学校の学習と評価について

富士見市立富士見台中学校

1 富士見台中学校における観点別学習状況、評定について

各教科には、それぞれ評価する観点（全教科とも3観点）が決められています。その観点にそって、一人ひとりの学習状況が評価規準に基づきA、B、Cで評価されます。そして、各学期の終わりに総括して5段階評定が決められます。

2 観点別学習状況の評価と評定の考え方について

観点別学習状況評価については、文科科学省から、「A」は十分満足できると判断されるもの、「B」はおおむね満足できると判断されるもの、「C」は努力を要すると判断されるものと示されています。なお、評価規準は、各教科の特性によって違うので教科から説明があります。また、評定については「5」は十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの、「4」は十分満足できると判断されるもの、「3」はおおむね満足できると判断されるもの、「2」は努力を要すると判断されるもの、「1」は一層努力を要すると判断されるものと示されています。

3 富士見台中学校の評価から評定への総括についての基本的な考え方

「2 観点別学習状況の評価と評定の考え方について」をもとに、評定について、以下のようになります。

観点別評価 (3観点A, B, C)	評定 (5, 4, 3, 2, 1)
A A A	5 or 4 *
A A B	4
A B B、B B B A B C、B B C	3
B C C	2
C C C	2 or 1 *

* 「5」は十分満足できると判断されるもののうち特に高い程度のものに対して、「A」は十分満足できると判断されるものとなっていることから、観点が「A A A」でも「4」である可能性があります。同様に「C C C」が「2」である可能性もあります。

4 普段の学習活動が評定の大切な資料となります

評価評定は、定期テストの点数だけでは決まるものではありません。普段の学習への取組（授業での成果）も評価に反映されます。例えば、宿題や提出物、ノートやプリント、小テスト、作品、実技テスト、授業での取り組みや発表、時には忘れ物の有無や授業態度などが評価の資料となります。

5 観点別評価について

「知識・技能」の評価

○個別の知識及び技能の習得状況についてを評価する。

「思考・判断・表現」の評価

○知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力・判断力・表現力等が身についているかを評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

○「粘り強く学習に取り組む態度」及び「自ら学習を調整しようとする態度」とを総合的に評価する。

第3学年国語科シラバス

1、教科の目標・身につけたい力

- 【興味・関心】…言葉の面白さを知り、日本語の奥ゆかしさを感じる
- 【話す、聞く】…自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身につける。
- 【書く】……… 様々な材料を基に自分の考えを深め、論理的に書き表す能力を身につける。
- 【読む】……… 目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身につける。
- 【言語事項】… 漢字や文法などの基礎的な言語事項を身につける



2、主な学習の内容

- ・小説、随筆、説明文、古典など様々な文章の朗読および読解
- ・思ったこと考えたことの商品化（作文）や発表。
- ・文章の読解に必要な基礎学力（漢字、文法等）の習得。

評価の観点と方法

1、評価の観点

- ① **知識・技能** B：言語についての基礎的な知識があり、場合に応じてある程度使いこなすことができる。文章やスピーチからある程度内容を理解することが出来る。
- ② **思考・判断・表現** B：文章やスピーチに対しての自分の考えや意見を持ち、言葉で伝えることが出来る。
- ③ **主体的に取り組む態度** B：授業の準備がなされている。提出物をやり終えて、期限までに提出する。授業中の発言・発表・態度が意欲的である。定期テストで授業の内容をある程度理解出来ている。

※Bの評価は観点の内容がおおむね満足できると判断されるものです。AはB以上に十分満足、CはBよりも努力を要すると判断されるものです。

2、評価の方法

- ◎ テスト（中間・期末・漢字テスト等の結果による到達状況）
- 授業における活動（意欲・態度・発言・予習・復習状況）
- 学習の成果および提出物（授業で書いたもの・ノート・ワーク等）
- スピーチ（発表および原稿の内容）

授業の心構えは…

- ・忘れ物をしない。
- ・積極的に発言する。
- ・予習、復習を心がける。

授業に準備するものは…

- ・教科書
- ・ノート
- ・筆記用具
- ・その他先生から指示されたもの
ワーク・便覧等

各学期の学習です

	1 学期	2 学期	3 学期
主な学習内容	・世界はうつくしいと 1 深まる学びへ ・握手 ・説得力のある構成を考えよう ・学びて時にこれを習ふー「論語」 [文法への扉1] [言葉1] 2 視野を広げて ・作られた「物語」を超えて ・論理の展開を意識して書こう [漢字1] ◎書写—硬筆 3 言葉とともに ・俳句の可能性 ・俳句を味わう ・言葉の釣り糸を垂らす [言葉1]	4 状況の中で ・挨拶—原爆の写真によせて ・故郷 ・聞き上手になろう [言葉3] [漢字2] 5 自らの考えを ・複数の意見を読んで、考えよう ・聴きひたる 初恋 [言葉3] 6 いにしえの心を受け継ぐ ・古今和歌集 仮名序 ・君待つと—万葉・古今・新古今— ・夏草—「おくのほそ道」から 7 価値を生み出す ・それでも、言葉を ・合意形成に向けて話し合おう [漢字3] ◎書写—毛筆（書き初め）	8 未来へ向かって ・温かいスープ ・アラスカとの出会い ・律儀な桜 ・わたしを束ねないで ・三年間の歩みを振り返ろう check!

第3学年社会科シラバス

1. 教科の目標

- ＜歴史的分野＞ 日本の歴史を理解し、社会で役立つ人を育てる。
- ＜公民的分野＞ 平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な力を育てる。

2. 主な学習の内容

- ＜歴史的分野＞ 二度の世界大戦と日本 現代の日本と私たち
- ＜公民的分野＞ 現代社会 日本国憲法 民主政治 暮らしと経済

3. 身につけたい力

- 日本の歴史について、基本的な知識を身につける。
- 国際社会に生きる日本人としての資質（知識・能力・行動する力）を養う。

授業の心構えは…

- 授業準備を確実に
- 話をよく聞き、自分の頭で考える

授業に準備するものは…

- 教科書、資料集、地図帳
- ノート（A4）

評価の観点と方法

評価の観点と方法

○3つの観点による評価

・知識・技能…テスト・小テスト・プレゼンテーション資料

歴史 歴史の大きな流れを把握、各時代の特徴を理解し、諸資料から地理に関する様々な情報をまとめている。

公民 人権の意義、自由・権利と責任・義務の関係を正しく認識し、現代の社会生活と経済生活について自分自身と社会との関わりを中心に理解を深め、諸資料から地理に関する様々な情報をまとめている。

・思考・判断・表現…テスト、ノート、話し合い活動、調べ学習の成果物

歴史 歴史に関わる事象の意義や特色、伝統や文化などを年代、推移、比較したり、関連や現在とのつながりに着目し、多面的・多角的に考察する。適切な資料を選択し、考察したことを説明したり、それらを基に議論している。

公民 現代社会で起こったことの意味や意義、特色などを現代の社会生活と関連づけて、多面的・多角的に考察する。適切な資料を選択し、考察したことを説明したり、それらを基に議論している。

・主体的に学習に取り組む態度…ワーク、テスト、ノート、話し合い活動の成果物

よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題を主体的に追求、解決しようとしているかどうかを授業、定期テスト等で評価していく。

※Bの評価は観点の内容がおおむね満足できると判断されるものです。AはB以上に十分満足、CはBよりも努力を要すると判断されるものです。

各学期の学習です

	1 学期	2 学期	3 学期
主な学習内容	＜歴史＞ ○二度の世界大戦と日本 ○現代の日本と私たち	＜公民＞ ○現代社会と私たち ○個人の尊重と日本国憲法 ○現代の民主政治と社会	＜公民＞ ○地球社会と私たち ○より良い社会を目指して
	＜公民＞ ○私たちの暮らしと経済		

家庭学習のポイント

1. 予習を中心に学習を進め、授業で確認し、主体的に学びに迎える準備を行う。
2. その日に学習した要点を教科書で確認する。理解できなかった重要語句は、その意味を調べる。
3. 復習では、問題演習中心に学習を進め、間違いは必ず見直し、基礎・基本の定着を確実にする。

第3学年数学科シラバス

1、教科の目標

- ◎学習手順を丁寧に押さえ、基本的な知識や能力が確実に身につくようにする。
- ◎数学的な感覚を大切に、生徒にわかりやすく親しまれるようにする。
- ◎計算力を高め、基本図形の性質を習熟させる。

2、主な学習の内容

- ・式の展開と因数分解 ・平方根 ・二次方程式 ・関数 $y = ax^2$ ・図形と相似
- ・円の性質 ・三平方の定理 ・標本調査

3、身につけたい力

- ・数学的見方、考え方を育てる。
- ・必要感を持たせ、基礎的知識を身につける。



評価の観点と方法

1、評価の観点

- ① 数学的な知識・技能
B：・数学の知識を正しく理解し、表現することができる。
・数学的な処理が素早く正確に表現することができる。
・定期テストの知識・技能を問う問題の正答率が高い。
 - ② 数学的な思考力・判断力・表現力
B：・課題に対し、知識を活用し、考えた過程や結果をまとめ表すことができる。
・定期テストの見方・考え方を問う問題の正答率が高い。
 - ③ 主体的に学びに向かう態度
B：・提出物をやり終えて、期限までに毎回出せる。
・授業中の発言・発表が意欲的である。
・定期テストの正答率が高い。
- 各観点の評価は上記の内容を総合的に評価する。

※Bの評価は観点の内容がおおむね満足できると判断されるものです。AはB以上に十分満足、CはBよりも努力を要すると判断されるものです。

2、評価の方法

- ・毎時間の授業への取り組み、定期テストの結果、小テスト
- ・授業ノートや授業ファイルの内容、提出物の状況・自己評価などを基にして、総合的に評価する。

授業の心構えは…

- ・授業の準備をしっかりとる。
- ・目的と意欲を持って授業に臨む。
- ・創意工夫してノートにまとめる。

授業に準備するものは…

- ・教科書
- ・ノート
- ・ワークブック
- ・その他、単元ごとに必要な道具

各学期の学習内容です

	1 学期	2 学期	3 学期
主 な 学 習 内 容	1 章 式の展開と因数分解 ・多項式の計算 ・因数分解 ・式の計算の利用 2 章 平方根 ・平方根 ・有理数、無理数 ・根号を含む式の計算 3 章 二次方程式 ・二次方程式の解き方 ・平方の形への変形 ・解の公式を用いた解法 ・二次方程式の利用	4 章 関数 $y = ax^2$ ・関数とグラフ ・関数 $y = ax^2$ の値の変化 ・関数 $y = ax^2$ の利用 ・いろいろな事象と関数 5 章 図形と相似 ・図形と相似 ・平行線と線分の比 ・相似な図形の計量 ・相似の利用 6 章 円の性質 ・円周角と中心角 ・円の性質の利用	7 章 三平方の定理 ・直角三角形の3辺の関係 ・三平方の定理の利用 8 章 標本調査 課題学習

家庭学習のポイント

1. その日に学習した内容を教科書で確認し、教科書や問題集の練習問題を解く。
2. ノートは、黒板の内容を写すだけでなく、先生の話聞きながらメモをとる。また、疑問に思ったところにするしをつけておき、授業後などにすぐに聞きに行く。
3. 復習を中心に学習を進め、テストで間違えたところは必ずやり直し、基礎基本の定着を確実にする。

第3学年理科シラバス

1. 教科の目標

* 自然に対する関心を高め、目的をもって観察・実験を行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに、自然に対する理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

2. 主な学習の内容

第1分野 化学変化とイオン 運動とエネルギー

第2分野 生命の連続性 地球と宇宙 地球と私たちの未来のために

3. 身につけたい力

- * 自然の観察や自然にはたらきかける実験を通じて自然科学の基礎的な概念や法則を習得する。
(なぜなんだろう? どうしてなんだろう? もしこうしたらどうなるんだろう?)
- * 自然のしくみや規則性のすばらしさを知り、自然を大切にし、生命を尊重する態度を身につける。



評価の観点と方法

1. 評価の観点

○ 主体的に学習に取り組む態度

提出物がきちんと出せる。

理科に対しての興味・関心があるかどうか。

小テスト・定期テストの点数

○ 思考・判断・表現

発問や課題を的確にとらえ、表現できる。

実験・観察の技能習得と図表を的確に読み、表すことができる。

○ 知識・実験

定期テストの点数。 実験・観察の基本操作ができる。

※Bの評価は観点の内容がおおむね満足できると判断されるものです。AはB以上に十分満足、CはBよりも努力を要すると判断されるものです。

2. 評価の方法

- 授業における活動（意欲・態度・発言・実験観察の技能）
- 提出物（実験観察の報告書・ノート・ワーク等）
- 定期試験（出題内容により思考・技能・知識を評価）

授業の心構えは…

理科が好きで得意になるために

- 日常生活の中で不思議に思った事やすばらしいと思った事を書き留めておき、機会を見て調べる習慣を身につける。
- 積極的に授業に取り組み、予想→実験観察→結果の考察 この考え方の展開を身につける。

授業に準備するものは…

- 教科書、理科ノート、資料集、理科の自主学習、ファイル
→5点セット
- 実験観察等で必要なもの
※理科で実験を行うときは、ジャージ・体操着で！

各学期の学習です

	1学期	2学期	3学期
主な学習内容	1、生命の連続性 ・生物のふえ方と成長 ・遺伝の規則性と遺伝子 ・生物の種類の多様性と進化 2、化学変化とイオン ・水溶液とイオン ・電池とイオン ・酸・アルカリと塩	3、運動とエネルギー ・力のつり合い ・物体の運動 ・仕事とエネルギー ・多様なエネルギーとその移り変わり ・エネルギー資源とその利用 4、宇宙を観る ・宇宙の天体 ・太陽と恒星の動き ・月と金星の動きと見え方	5、自然と人間 ・自然界のつり合い ・さまざまな物質の利用と人間 ・科学技術と人間 ・人間と環境 ・持続可能な社会をめざして 6、1・2年の復習

第3学年音楽科シラバス

1、教科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。

2、主な学習の内容

・歌唱 ・器楽 ・創作 ・鑑賞

3、身につけたい力

・自ら進んで音楽活動に取り組み、生涯にわたって音楽を愛好する気持ちを持つことができる。

評価の観点と方法

1、評価の観点

- ① 知識・技能
 - ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わりおよび音楽の多様性について理解している。
 - ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。
- ② 思考・判断・表現
 - ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図を持ったり、音楽を評価しながら良さを味わって聴いたりしている。
- ③ 主体的に学習に取り組む態度
 - ・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

2、評価の方法

- ・出席状況
- ・授業中の課題に取り組む態度
- ・授業中の話し合い活動・発言・発表の様子や内容
- ・授業中の演奏の様子・内容
- ・自己評価カード等の提出の様子や記録してある内容
- ・鑑賞プリントの提出の様子や記録してある内容
- ・筆記試験・実技試験

授業の心構えは…

- ・美しさを追い求める心
 - ・力を合わせて音楽を作ろうとする心
 - ・さらにより表現をしようとする心
- を持って音楽室に来ましょう

授業に準備するものは…

- ・教科書（歌唱・器楽）
- ・合唱曲集
- ・ソプラノリコーダー
- ・配布されたプリント（ファイルを使用します。）
- ・筆記用具 など



各学期の主な学習

	1 学期	2 学期	3 学期
主 な 学 習 内 容	・校歌(表現) ・花(表現) ・ソプラノリコーダー Lesson 1 (表現) ・ブルタバ(鑑賞)	・クラス自由曲(表現) ・帰れソレント(表現) ・ソプラノリコーダー Lesson 2 (表現) ・ボレロ(鑑賞)	・卒業式合唱曲(表現) ・日本伝統音楽(鑑賞) ・世界の諸民族の音楽(鑑賞)

第3学年美術科シラバス

1、教科の目標

「つくること」「味わうこと」などの美術の活動を通して、その喜びを味わい美術を愛好する心を育てるとともに、美術の基礎的な力を伸ばし、豊かな感受性や情操を養います。

2、主な学習の内容

美術の分野は、絵や彫刻、デザイン、工芸、鑑賞に分かれています。本物のように、また心に浮かぶままに制作したり、生活に使うものや飾るものなどを制作したりします。

素晴らしい作品や工芸を見て味わうことも美術科の大切な学習です。

「私たちの生活から離れた美術とはならないように」ということを考えながら、指導しています。

3、身につけたい力

- (1) 意欲的にまた根気よく授業に取り組む力
- (2) 自分から美しさや楽しさや発見し、工夫して制作し表現する力
- (3) 私たちを取り巻くものの美しさや楽しさを感じ取り、生き生きと表現する力



評価の観点と方法

1、評価の観点

- ①**知識・技能**・造形的な視点について理解している。
・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
- ②**思考・判断・表現** 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
- ③**主体的に学習に取り組む態度** 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

2、評価の方法

- 出席状況
- 作品そのものの評価（ワークシートも含む）
- 授業の様子、課題に取り組む態度
- 自己評価カードの記録、内容
- 鑑賞プリントの記述内容
- 定期テストは実施していません

授業の心構えは…

- **楽しく、そして自分に厳しく！**
 - ・集中し、最後まであきらめずに制作しよう。
 - ・忘れ物をなくそう。
 - ・おしゃべりをつつしもう。
 - ・作品や用具を大切にしよう。
 - ・後始末をきちんと行なおう。
 - ・持ち物や作品に名前を書こう。

授業に準備するものは…

- 美術は題材によって持ち物が変わりますので、教師の指示にしたがって忘れ物のないようにしてください。
- 2・3年生では用具や材料選びも、自分の工夫による取組が増えてきます。生徒諸君の制作の意図に合わせて、意欲的な活動を望んでいます。

各学期の学習です

	1 学期	2・3 学期
主な学習内容	○本年度の美術科の内容 ○重ね絵制作（絵画＆立体分野）	○和傘制作 ＜絵画分野＞ ○だるま制作＜デザイン・立体分野＞ ○鑑賞 ※制作進度によっては内容が変更、追加になることがあります。

富士見台中学校 第3学年「保健体育」シラバス

【教科の目標】

☆運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動・体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身につけるようにする。

☆運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

☆運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。

★「体育分野」と「保健分野」ともに全学年必修

【評価の観点・方法】

評価を行うための3つの観点

運動や健康/安全についての

- ①知識および技能
- ②思考、判断、表現
- ③主体的に学習に取り組む態度

〈これらの観点を評価する資料〉

①について

- ・運動の特性とルール of 習得
- ・定期テスト
- ・授業での観察（練習・ゲーム）
- ・種目に応じた技能 ・スキルテスト

②について

- ・自己やグループでの課題を解決するための練習（その中での工夫・修正等の気づき、他者との関わり等）

③について

- ・授業に向かう姿勢（出欠状況・態度・安全性等）
- ・発言や学習カードによる記述

	学習内容	学習のねらい
1 学 期	授業規律の確立 体育理論(1) 【体づくり運動】 （新体力テスト） （体育祭練習） 【器械運動】 （マット or 跳び箱） 【陸上競技】(リレー) …から領域選択 【水泳】 （クロール/平泳ぎ/背泳ぎ /バタフライ、リレー） <u>保健</u> 健康と環境	*授業のきまりや準備運動等の確認 *現代生活におけるスポーツの文化的意義 *仲間と積極的に手軽な運動を行い、調和のとれた体力向上を図るための運動を行う。 *回転系や巧技系の基本技を滑らかに安定して行い、構成し演技する。 *中間走へのつなぎを滑らかにして走り、記録の向上を目指す。 *能力別に分かれ、各課題に取り組む。 また記録の向上や競争の楽しさを味わい、効率的に泳げるようにする。 *健康と環境の関わりについて
2 学 期	体育理論(1) 【武道・ダンス(選択)】 ・柔道 ・ダンス 【球技Ⅰ(選択)】 ・バレーボール ・ソフトボール 【陸上競技】 ・長距離走 <u>保健分野</u> *健康な生活と 疾病の予防③	*国際的なスポーツ大会の文化的な役割 *相手の動きの変化に応じた基本技・連絡技を用いて、崩したり押さえたりするなどの攻防をする。 *創作ダンスまたはリズムダンスでイメージやリズムにあわせて簡単な作品にまとめて踊り発表や交流を行う。 *役割に応じたボール操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をする。(バレー) *安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備による攻防をする。(ソフトボール) *自分に適した練習メニューを考え練習に励む。また、記録の向上を図る。 *感染症(性感染症)の予防
3 学 期	体育理論(1) 【球技Ⅱ(選択)】 ・バスケットボール ・サッカー <u>保健分野</u> *健康な生活と 病気の予防③	*人々を結びつけるスポーツの文化的なはたらき *勝敗を競う楽しさや喜びを味わい作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 *健康を守る社会の取り組み

第3学年 技術・家庭科シラバス

1、教科の目標

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術との関わりについて理解を深める。

2、主な学習の内容

- ・情報とコンピュータ プログラミングによる問題解決 (D 分野)
- ・家庭生活と家族

3、身につけたい力

学習した知識や技術をもとに生活と技術の関係について考え、工夫し創造しながら実際に生活の中で生かす態度を身につける。

評価の観点と方法

1、評価の観点

- ・生活の知識・技能
生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。
- ・生活の思考力、判断力、表現力
生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身につけている。
- ・主体的に学習に取り組む態度
よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

2、評価の方法

- ・授業の準備、様子
- ・学習ノート、プリント
- ・製作作業の様子、状況
- ・製作品
- ・実技の様子、状況
- ・ペーパーテスト
- ・提出物



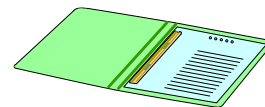
※評価は学期ごとに技術科と家庭科をあわせて行います。
ただし5と3で4とは限りません。全体的な取り組み結果から判断します。

授業の心構えは…

- ・意欲を持ち、安全に気を付け積極的に取り組む。

授業に準備するものは…

- ・教科書・筆記用具・パソコン
ファイル・ワークノート



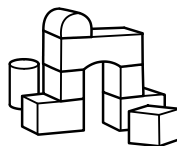
1 年間で学ぶこと

主な学習内容

- ・幼児期の自分史
- ・幼児の成長
- ・幼児の生活と遊び



- ・幼児とのかかわり方
- ・乳幼児を支える環境
- ・消費生活と環境
- ・商品の選択と購入



※技術・家庭科は週1時間になります。
(基本は隔週授業となります)

- ・コンピュータの応用
(プログラムの構造と理解、プログラミングによる問題解決)

- ・情報モラル
情報の技術を安全に使用するために

- ・消費者の権利と責任



第3学年英語科シラバス

1、教科の目標

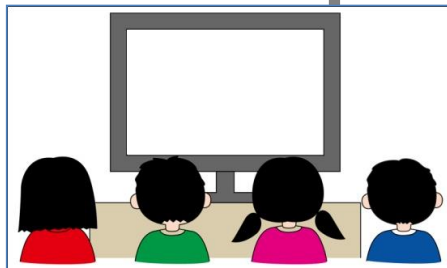
- 英語に親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろう。
- 基本的な文法事項を習得しよう。

2、主な学習の内容

基本的な文法事項及びコミュニケーション活動

3、身につけたい力

自分の考えを英語でよりくわしく伝え、お互いの意見交換ができるようにする。



評価の観点と方法

1、評価の観点

○知識・技能

- B英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。
- B日常的な話題や社会的な話題について内容を捉え、自分の考え、気持ちなどを伝え合う技能を身につけている。

○思考・判断・表現

- B目的や場面、状況などに応じて、必要な情報を捉え、自分の考え、気持ちなどを伝え合うことができる。

○主体的に学習に取り組む態度

- B外国の文化に対する理解を深め、話し手、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を理解しようとしていたり伝えようとしていたりしている。

授業の心構えは…

やる気・元気・根気

授業に準備するものは…

教科書・ノート・ファイル
問題集

授業について

一人ひとりの力を伸ばすために、
ペアワーク、グループワーク等、
学習形態を工夫します。

※Bの評価は観点の内容がおおむね満足できると判断されるものです。AはB以上に十分満足、CはBよりも努力を要すると判断されるものです。

2、評価の方法

- ・授業参加への意欲、態度 ・提出課題 ・定期テスト ・小テスト ・パフォーマンステスト（スピーチ、スピーキングテストなど）などの各評価材料を、各観点の評価に使用していきます。そして、3つの観点を総合的に評価して、評定を出します。（各評価材料については、その内容によって、特定の観点について重みづけするものもあります。）

各学期の学習です

	1 学期	2 学期	3 学期
主 な 学 習 内 容	教科書 Unit0～Unit3 現在完了形 （完了・経験・継続） 現在完了進行形 It is ... (for + 人)～ ask (tell / want) 人 to～ など Stage Activity1 日本文化	教科書 Unit4～6 間接疑問文 現在分詞の後置修飾 過去分詞の後置修飾 関係代名詞（主格・目的格） 仮定法 など Stage Activity 2 活動報告	教科書 Let's Read 3年間の総復習 など Stage Activity3 ミニディベート

第3学年道徳科シラバス

教科の目標

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

評価の観点・資料・評定

【評価の観点】

①道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、人間としてのよりよい生き方を考えることができる。

②道徳的判断力

人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断することができる。

③道徳の実践意欲と態度

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし、道徳的価値を実現しようとすることができる。

【評価の資料】

①教師の授業中の観察や事後の分析

②ワークシートの記述

③生徒による自己評価

【評定】

「道徳」では、数値的な評定は行わない。

授業の心構え

- ・道徳的価値について考える。
- ・自分の意見に自信をもつ。
- ・自分の意見を見つめ直す。
- ・他者の意見を認める。
- ・新しい見方、考え方を取り入れる。
- ・悩むことを受け入れる。

授業に必要な物

- ・教科書
- ・筆記用具
- ・その他教師から指示、配布された物

各学期の学習

	1 学期	2 学期	3 学期
主な学習内容	1 自分をアップデート —HIKAKIN	13 くちびるに歌をもて	27 言葉おしみ
	2 二通の手紙	14 人間の命とは	28 卒業文集最後の二行
	3 地球を愛するプロ サッカーリーグ	15 避難所での出来事	29 缶コーヒー
	4 ある日の午後から	16 紀州のエジソン	30 加山さんの願い
	5 私の好きなもの	17 埴生の宿	31 幸せに生きる道 —滝沢ななえ
	6 いじめから目を そむけない	18 コスモスの花をさかせよう	32 足袋の季節
	7 合格通知	19 しあわせ	33 背筋をのばして
	8 熱球の軌跡	20 語らい—私たちが出会う 新しい私たち	34 ハッチを開けて、知らない 世界へ
	9 外国から来た転校生	21 その子の世界、私の世界	35 一冊の漫画雑誌
	10 早朝ドリブル	22 好きな仕事か安定か なやんでいる	
	11 花火と灯ろう流し	23 伝えたいことがある	
	12 たんぼぼ作業所	24 きれいな川	
		25 自分を変える力—桃田賢斗	
		26 スマホに夢中！	

学習方法

- 1 読み物教材において、登場人物への自己関与が中心の学習
- 2 道徳行為に関する体験的な学習
- 3 問題解決的な学習